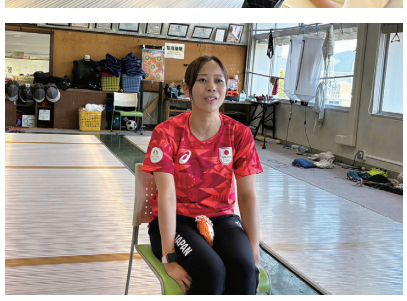
パリ五輪 フェンシング
女子フルーレ団体 銅メダル獲得



パリ五輪のフェンシング女子フルーレ団体で銅メダルを獲得された菊池小巻選手が、8月26日に母校である本校に来校されました。その際に時間を頂き、広報委員長高木、副委員長平山で独占インタビューをさせていただきました。今回は、あまりメディアでも語られていない菊地選手の高校時代について詳しく伺いました。

Q．菊地先輩は、高校時代どのような生徒でしたか？

A．熊本市内から通っていたので最初は不安でしたが、みんな優しくすぐに友達ができました。午後は部活動で忙しかったので、昼休みなど学校の時間を思う存分楽しんでいました。電車で通っていたので、翔陽坂のキツさも知っていますよ！

Q．在学中は農業系列食品製造に所属されていたようですが、選んだ理由はありますか？

A．自分が特に何かしたいなどはなかったので、顧問の太田先生がいらっしゃるところを自動的に選びました。ハムの製造が衝撃的で、脂肪を取る工程などなかなかしないので、一番印象に残っています。ケーキやパンを作ることもしましたが、肉の大きさや量にびっくりして、本当に衝撃的でした。

Q．フェンシング部顧問の太田先生はどのような先生でしたか？

A．もともと幼い頃から知っていたので、小さい頃はお兄ちゃんのような存在でした。しかし、高校に入ってからは先生や顧問として、少し怖いイメージがありました。アメとムチがしっかりしている先生ですよね。授業では少し関わり方が違ったのですが、それよりも太田先生が食品加工の先生というのが信じられなくて、ケーキを作っているとか、そんな一面を見られるとは思っていなかったです。体育の先生ならばしっくりきますが、本当に不思議で見慣れなくて。部活動とのギャップがすごかったです。

Q．在学中、学業面はどうでしたか？

A．成績は全然普通だったと思います。でも、3年次の前期にはちょっと頑張ろうと思ったら評定平均4．9を取ることができました。そのときは奇跡が起きました！1・2年次も全然普通の成績でしたし、そもそも勉強が好きではなくフェンシング一筋でした。でも3年次には頑張ったら良い成績を残すことができました。

Q．高校時代の友人と、現在も関わることはありますか？

A．最近は結婚の連絡などもあり、今でも連絡は取っています。東京に来てくれたときは遊ぶこともあります。しかし、どうしても連絡を返せないときもあり、予定が合わないことも多いです。それでもオリンピックのお祝いの連絡をくれたので、よい友達に恵まれたと思っています。友達は大事にしたほうが良いですよ！

Q．当時と今とで、翔陽高校で変わったところはありますか？

A．以前はフェンシング練習場の場所が違い、砂利駐車場の方に古い実習棟がありました。そこで練習をしていたので、環境は全然変わっています。教室棟は、私が3年次生のときから今の校舎を使ったのですが、実習棟はとても新しくすごく良い環境だなと思います。当時は実習棟が遠かったので、移動教室も大変だったのを覚えています。

Q．オリンピックなどの大舞台で緊張されると思いますが、その緊張を解く方法はありますか？

A．緊張をしてしまう自分がいるのは事実ですが、でもそれまでにやってきたことや培ってきたことがたくさんあるから、それを思い出すと自信を持って挑むことができると思っています。勉強面でも、これまでやってきたことの自信があれば、緊張することがあっても自信に変えることができると思います。フェンシングでも緊張することがありますが、それ以上にやってきたことのほうが多いですし、その試合に対する思いのほうが強いので、「当たって砕けろ」というような気持ちが大事かなと考えています。

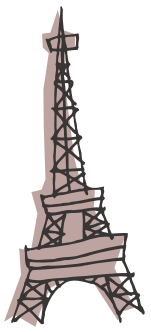
これから3年次生は就職試験や大学入試があると思いますが、「やれることはやってきた」と思って、そこで後悔しないようにただやってきたことを出すだけにすると良いと思います。緊張は誰でも絶対にするものですよ。

Q．今後の目標や夢はありますか？

A．パリオリンピックまではパリのことしか考えていませんでした。年齢が年齢なので、4年後のロスオリンピックまでとても長いですが、パリで個人戦に出られなかった悔しさがあり、純粋に個人戦に出場したいという気持ちが強いので、ロスに向けてまた4年間、突っ走っていこうと思います。そのために、目の前にある試合を大切にしていくことが今後の目標です。

Q．翔陽高校の生徒たちにエールをお願いします。

A．高校3年間は終わってみれば本当にあっという間で、いたときには気付かないことが多いです。今やっていることが将来に響き、巡り巡って良いことに繋がることを信じて、今を大切にしてほしいです。目標を叶えたときに、頑張ってよかったなと思える3年間にしてほしいので、是非「今」を頑張ってください。



菊池先輩、お忙しい中快くインタビューに答えていただきありがとうございました。取材中は私たちの系列や進路を質問してくださり、とても明るく親しみやすいところが印象的でした。その中で「今」を大切にしながら将来に向かって直向きに努力されるかっこよさや意志の強さがひしひしと伝わってきました。最後には可愛いポーチから銅メダルを出していただき、メダルを持たせていただきました。

インタビュー後はフェンシング部の練習に参加され、何人もの部員と本気で対戦。一人ひとりに熱心なアドバイスをされていました。私たちも菊池先輩のように、在学中はもちろん、卒業してからも様々なところで活躍したいと心から感じました。菊池先輩、本当にありがとうございました。